

下記臨床研究は「東海大学医学部臨床研究審査委員会」の承認および研究機関の長の許可を得て実施しています。当該試料・診療情報等の使用については、研究計画書に従って匿名化処理が行われており、研究対象者の氏名や住所等が特定できないよう安全管理措置を講じた取り扱いを厳守しています。

本研究に関する詳しい情報をご希望でしたら問い合わせ担当者まで直接ご連絡ください。また、本研究の成果は学会や論文等で公表される可能性があります。個人が特定される情報は一切公開しません。

本研究の研究対象者に該当すると思われる方又はその代理人の方の中で試料・診療情報等が使用されることについてご了承頂けない場合は、下記お問い合わせ先までご連絡ください。研究対象から除外させていただきます。但し、そのお申出は研究成果の公表前までの受付となりますのでご了承願います。なお、同意の有無が今後の治療等に影響することはありません。

血液培養検査における汚染率のモニタリングと対策に関する後ろ向き調査

1. 研究の対象

2015年1月1日～2023年12月31日に東海大学医学部付属病院にて血液培養検査を実施された患者さん

2. 研究実施期間

研究機関の長の許可日～2027年12月31日

3. 研究目的・方法

目的：

血液培養検査は感染症診療において重要な検査であり、血液培養から細菌が検出された場合は治療の対象となります。その一方で、不適切な検体採取により皮膚に存在した細菌が血液培養検査から検出される場合があります。これを「汚染菌」と言います。汚染菌の検出は、誤った治療の選択の原因や感染の危険を惹起するため、回避すべき事象です。

汚染菌検出の原因として、採血時の不十分な消毒、中心静脈ライン側管の汚染、不適切な部位（鼠径部など汚染が著しい部位）からの採血などがあります。これらの原因を念頭に、汚染菌検出をモニタリングし適宜有効な感染対策を講じる必要があります。

このため今回の研究で、血液培養検査のモニタリング結果とその都度講じた対策、その後の血液培養検出状況を調査し、汚染菌検出の効率的抑制方法を明らかにします。

方法：

この研究に使用する情報として、診療情報から項目 4 に記載する情報を抽出し使用させていただきますが、氏名、生年月日などのあなたを直ちに特定できる情報は削除し使用します。また、あなたの情報などが漏洩しないようプライバシー保護には最新の注意を払います。

4. 研究に用いる情報の種類

年齢、性別、診断名、診療科、血液培養検査結果、入院日数、血液培養の採取部位、血液培養の採取場所（外来・病棟の別）、血液培養を採取した職種、セット数

5. 情報の提供先・提供方法

結果について外部への提供はいたしません。

6. 利益相反に関する事項

この研究は、特定企業等からの資金提供はないため開示すべき利益相反はありません。

7. お問い合わせ先

東海大学医学部付属病院 （電話：代表 0463-93-1121 内線：2270）

研究責任者 東海大学医学部総合診療学系小児科学 講師 煙石真弓

問い合わせ担当者 東海大学医学部総合診療学系小児科学 講師 煙石真弓